



各学校における事業評価

<西学区>

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価
			良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価
			良好な点：○、課題が残る点：△
32	鶴岡南山添校	<p>【「黒川能」についての学習と、「黒川能」関連行事に関わるボランティア活動】</p> <p>1 講義と演習 (1) 黒川能についての学習の説明とビデオ学習 (2) 黒川能についての講話 (講師下座太夫上野由部氏) (3) 黒川能についての学習のまとめ</p> <p>2 王祇会館・春日神社での講義 (黒川能の歴史や所作等)</p> <p>3 黒川能の催事に係るボランティア活動 (1) 「水焰の能」会場設営ボランティア (2) 「王祇祭」春日神社等の境内整備ボランティア</p> <p>4 能楽の鑑賞：下座能楽と狂言</p>	<p>○地域の伝統文化を学ぶことで、生徒の地域理解が深化するとともに、「さらに地元の事を知りたい」という能動的な姿勢が見られた。</p> <p>○事業を通して、「ボランティア活動は自分を成長させるものである」という自己肯定感が上昇した。</p> <p>△ボランティア活動の有用性は理解しているものの、生徒自らが関わりを持とうとする姿勢がなかなか見られない。社会性を育成するためにも、事業を通して、校外の様々な活動に積極的に向かい合う意欲の育成に繋げていきたい。</p>
			<p>○黒川能の他にも、様々な地域行事に協力してもらっており、大変ありがたい。閉校に伴い、生徒数も減少してくるが、今後も、無理の無い範囲で関わってもらいたい。</p> <p>△山添校生がいるうちに、黒川能やボランティア活動等を地元の小中学校と協力して行うような体制をつくってはどうか、という意見もある。しかし、小中学校の諸事情もあることから、今後の検討課題としてほしい。</p>



黒川能の学習（道具類について）

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
34	鶴岡工業	<p>[工業教育の充実と、地域とつながり 地域社会に貢献できる生徒育成]</p> <p>1 大学での先端技術の研究体験と模擬講義体験 (1) 大学での最先端研修 「3Dスキャナ製作」をテーマに、CADや3Dプリンタの使い方や活用方法を2名の生徒が学習した。 (2) 大学生の発表会に参加しての研修 「地域活性化のアイデア発表会」に、5名の生徒が見学と発表体験で参加した。</p> <p>2 課題研究や研究クラブを中心とした、探究・研究活動や実践的活動と情報発信 (1) 「鶴工ものづくり展示会」の実施 作品展示、実演、公開講座（のべ1,000人程度が参加） (2) 「鶴工研究発表会」の実施 各学科や研究クラブの研究成果発表（8テーマ）</p>	<p>○「創造的思考」や「探究力」、「主体性」、「協働性」を育てる貴重な活動をとおり、学びに向かう意欲と物事に対する挑戦心を育てることができた。</p> <p>○地元大学での研修や、展示会・発表会における地域の方々との関わりをとおして、地域に貢献している実感と地域貢献に対する意識が高まった。</p> <p>○本校の特色ある教育活動の一端を広く地域に公開することができた（「ものづくり展示会」の公開講座の参加者：のべ1,000人程度、「研究発表会」の来賓等：80名程度）。 △大学の先端研修への参加者が少なかった（他の事業と日程が重複）。</p> <p>○いずれの取組みも、継続することにより発展的に推進されている。</p> <p>○いずれの取組みも、工業教育の充実、学校活力の創出、地域社会に根差した魅力あるものである。</p> <p>○研究発表会も、年々レベルアップした内容となっている。</p> <p>○地域のニーズに応える先進教育と、生徒個々の特性に合った教育を進めている。</p> <p>△心の醸成も図ってもらいたい。</p>
			 <p style="text-align: center;">最先端研修</p>  <p style="text-align: center;">鶴工ものづくり展示会</p>



学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
34	鶴岡工業 (定時制)	<p>[鶴工定時 外へ出ようー未来につなぐ4年間 学び 体験 コミュニケーションー]</p> <p>1 地域づくりと方法を学ぶ 「人生のデザインを考える」講話と講義の受講 (1) 事前学習 (2) 講義等の受講</p> <p>2 地域交流の活動 「地域に花を届けよう」 学んだことを発展させ、ものづくりを生かした地域活動を実践した。 (1) 木製プランターカバーと鉢置台製作 (2) 球根の寄せ植え (3) 地域団体に贈呈</p>	<p>○地域に対する関心と理解が深まった。</p> <p>○地域の大学の研究に対する関心が高まった。(進路意識の高揚)</p> <p>○自分の生き方を考えることができた。(進路意識の高揚)</p> <p>○活動の継続による地域交流やボランティアへの関心が高まった。</p> <p>○ものづくりを通して地域に貢献することで、郷土愛が高まった。</p> <p>○継続して公益の心を学び「おもてなし」の心を醸成してほしい。</p> <p>○自分たちの住む地域の魅力を知る機会としての取組みが、生徒の地域への関心を深めるものとなるよう、今後も地域との関わりを目的とした企画を進めてほしい。</p> <p>○地域のためにプランターを作製して福祉団体に配分するなど、積極的な活動は高く評価できる。</p> <p>○生徒の作文から、成長しようとする自身の生き方に影響を受けたことが、良くわかった。東北公益文科大学にまた行けたらよいと思う。</p> <p>○毎年生徒たちの様子をふまえて事業内容を検討・開拓していることが良い。さらに、生徒たちの居場所と出番(役割)を継続的に構築できるフィールドが増えることを期待している。(卒業生の関わりにも期待している。)</p>





プランターの寄せ植え

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
35	鶴岡中央	<p>[地域との協働体制の構築]</p> <p><普通科></p> <p>(1) 地元企業訪問</p> <p>(2) 地元企業との懇談会</p> <p>(3) 協働的な学習によるテーマ別地域課題探究学習と発表</p> <p><総合学科></p> <p>(1) 産業社会と人間や総合学習、課題研究における体験的・実践的な学習</p> <p>(2) 地域の実態を知り、高校生として地域に貢献できることを考える学習</p>  <p>シルクブーケ制作講座</p>	<p>○普通科 地元企業との懇談会を通して、地域の産業に目を向け、そこで自分が働くことをイメージし、将来の自己実現に向けた新たな知識を得ることができた。また地域課題探究学習を通して、地域の方との積極的な関わりを通して、自ら課題を発見し、解決するための方法を考え活動することにより、自己実現を図るための実行力を身に付けた。</p> <p>○総合学科 課題研究を通して、地域社会や人と積極的に関わりを持ち、コミュニケーション能力を高めることができた。自ら課題を発見し、解決するための方法を考え活動することにより、自己実現を図るための実行力を身に付けた。</p> <p>○総合学科発表会参観者アンケートでは、参加して学校の様子を理解するために役立ったという答えが多かった。</p> <p><保護者による教育評価></p> <p>○「普通科と総合学科それぞれの特色を活かした教育活動を展開している」普通科 95.0% (前年比+1.4%) で評価が上がっている。</p> <p>△「全体を通して、保護者の期待に応えた教育活動が行われている」普通科 83.4% (-0.6%) 総合学科 85.2% (-0.4%)</p> <p>△「教育活動を家庭や地域に伝える努力をしている」普通科 80.5% (-0.9%) 総合学科 79.9% (+1.5%)</p> <p><教職員の評価></p> <p>△「教育活動や学校運営の状況を保護者・地域に知らせている」は 96.8% (-1.6%) と高いが、保護者の評価との開きがあるため、PR方法を工夫する必要がある。</p>
37	庄内農業	<p>[庄内地方における小麦の栽培と商品開発]</p> <p>1 遠隔地農場の利用と小麦の栽培</p> <p>(1) 本校玉川農場での小麦栽培</p> <p>(2) 小麦を利用した商品開発と販売</p> <p>2 地域の食品加工業者からの技術指導と商品開発</p> <p>(1) 地域のベーカリーや菓子製造業者からの協力による商品開発</p> <p>(2) 開発した商品のコンセプトやパッケージデザインなどによるプロモーション活動と販売</p>	<p>○製造だけでなくパッケージデザインや商品のコンセプトを確立させた商品を作ることができた。</p> <p>△2学年科内選択者の授業だったために次年度に継続することができない。</p> <p>○6次産業化に向けた商品開発については、地元企業と連携し、技術指導を受けながら研修を重ねることにより、生徒の学習意欲も向上している。</p> <p>○「魅力あふれる学校づくり推進事業」の活動を通して、食品関連企業に就職する生徒が増加傾向にあることは評価される。(H30年度 30.2%→R1年度 33.3%)</p>  <p>地域の食品加工業者からの技術指導</p>

学 校 名	事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
36 加茂水産	<p>[地域貢献、地域の活性化に向けた取組み]</p> <p>1 地域事業等への参加 (1) 鶴岡大産業まつり (2) 県産業教育フェアへの参加</p> <p>2 地元の水産物を使った製品づくり、製品開発</p> <p>3 地元の料理人による地元水産物を使った料理教室</p> <p>4 淡水エビ「スジエビ」を使用した教材開発と産業活用への模索</p> <p>5 サケ・マス類生産現場実習 (1) 種苗放流と出前授業（大山小学校） (2) 「タマサバ（金魚の品種名）」の授業導入と普及（配布）</p> <p>6 地元漁業体験・漁具作成 (1) 6月鼠ヶ関底引き網体験漁業、10月由良定置網実習 (2) 課題研究小型定置網漁具作成</p> <p>7 海洋教育促進活動 (SDG s 11, SDG s 13, SDG s 14, への取組み) (1) 課題研究での取組み ・北前船と加茂地区の海洋文化等 (2) 山形県海洋教育研究会等の取組み ・海洋教育サミット発表等</p>	<p>○学校の特色（水産科）を生かし、地域の水産業の方々と連携をとりながら実施したことで、生徒達に水産業の魅力が伝わっている。</p> <p>○県産業教育フェアや、つるおか大産業まつりでの実習製品の販売を通して、ラベル表示や流通経路、食品衛生など様々な分野での学習に興味関心を抱くきっかけとなった。</p> <p>○庄内浜で獲れるサゴシ、サバ、イワシなどを使った缶詰の試作、レトルト殺菌装置を活用したレトルトのイカ飯カレーなどの製作を行うことができた。生徒自ら課題を見つけ、それに向けた対策を考えることができるようになり、学習に対する意欲も向上した。</p> <p>○卒業生の地元料理人を講師として招き、鳥海丸で漁獲したベニズワイガニやマグロ、地元の魚介類を使った料理の講習を行い、通常食品加工とは異なる調理方法や魚の捌き方を学ぶことで、生徒の調理技術への興味関心も高まった。</p> <p>○様々なメディアを通して学校の魅力を伝えていることが分かり、子供も楽しく学校に通っている。</p> <p>△特色を生かした学びのできる良い学校だと思うが、水産高校＝進路は漁師というイメージが強いので、もっと多くの方々に学校の良さを伝えて欲しい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="1025 770 1435 1070" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1536 770 1995 1070" data-label="Image"> </div> </div> <p style="text-align: center;">鶴岡大産業まつり</p> <p style="text-align: center;">定置網実習（由良沖）</p>

学 校 名	事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
38 庄内総合	<p>[地域資源を活用した「ふるさと探究」の展開]</p> <p>1 1年次 キャリア学習 (1) インターンシップおよび体験発表 (2) 社会人講話</p> <p>2 2年次 キャリア学習 (1) 職業人との交流会（企業見学） (2) 「君はどう生きるか」の作成と発表]</p> <p>3 3年次 キャリア学習 (1) 地元企業との交流会 (2) マナーアップ講座 (3) ふるさと探究学習</p> <p>4 3年次 卒業研究 (1) 地域課題をテーマにした個人研究</p> <p>5 総合学科発表会</p>  <p style="text-align: center;">地元企業との交流会</p>	<p>○社会人講話の内容や話し方も、本校生徒にとって聞きやすかった。自身の失敗談を正直に話されていて好感が持たれ、生徒も良く聞いていた。</p> <p>○地元企業との交流会を通して「県外就職希望だったが、今回の交流会で地元企業への興味が少し湧いた。」「皆さんが仕事に誇りを持っていることが伝わってきて、そのような仕事に就きたいと思った。」等、地元企業や職業の選択について理解を深めることができた。</p> <p>○庄内町と連携した地域課題解決学習「ふるさと探究」を通して、「私たちが地元を良くしていきたいという気持ちを持つことができた。」「これから地域を離れる人もいると思う。自分も県外に行くことを希望しているが、地域を思う気持ちは忘れないようにしたい。」等、地元に対する関心を高めることができた。</p> <p>○地元企業との交流会のような会社を紹介できる機会が増えればよいと思う。</p> <p>△地元企業との交流会について、会場（HR教室）に2つの企業が入るため、説明する企業の間が近すぎて、説明する内容（声）が聞きにくいと感じた。</p> <p>△キャリア学習の根本は“ふるさと”を知ることであると校長先生が話されたとおりでと思う。3年次生はすでに進路がある程度定まっていると思われる中で、ふるさとへの愛着度を高めるには1年次で「ふるさと探究学習」を実施する方が効果があるのではないかと考える。</p> <p>○総合学科発表会は数年前と比べると、発表者の話し方等が良くなったと思う。特に3年次生の卒業研究の発表は、内容、視点、プレゼン方法も内容の濃いものだった。今後、ますます地域（庄内町）との連携を深めてほしい。</p>  <p style="text-align: center;">ふるさと探究学習</p>

学 校 名	事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△ 学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
40 酒田西	<p>[地域との協力体制の構築を図り、探究学習の推進による個に応じたコース制の活動の充実に向けた取組]</p> <p>1 芸術コース（美術）：テーマを「目からウロコ」の芸術実技研修（美大まるごと体験合宿）」とし、「芸術」「デザイン」の視点で町づくりに参画した。</p> <p>2 医療コース：テーマを「がん治療の現状と患者の生き方、社会の在り方」とし、地域住民の方々とともに地域医療に関するワークショップを行った。</p> <p>3 理系コース：テーマを「地域農業の未来～農学から考える地域創生～」とし、地域農業関係者とともにワークショップを行い、「食」や「農」を通じた地域活性化に参画した。</p> <div data-bbox="544 863 898 1134" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">芸術コース（美術）</p>	<p>○この事業に対する生徒の期待度についてみると、芸術コース（3.7）、医療コース（3.5）、理系コース（3.2）となり、期待度は高い。</p> <p>○「美大＝造形表現の場」という一般的な認識から、「美大（特にデザイン）＝社会問題を解決する場、次代の課題を把握し自己発信する力を高める場」という気づきに至った生徒が多くいた。</p> <p>○発想力や創造力向上のために、広い視野・視点を持つことの大切さを実感できた生徒が多くいた。</p> <p>○自分の将来について見つめ直す機会となった生徒がいた。</p> <p>○「考えることを楽しめた」という生徒が現れた。</p> <p>○医療コースと理系コースに加え、社会科学系進路希望者も募り実施したことで、本校の多様な進路に対応した事業となった。</p> <p>○グループワークやフィールドワーク、ワークショップなどを取り入れ、様々なコミュニケーション活動を通して思考し表現する深い学びを体験することができた。</p> <p>○地域活性化を多角的な視点で捉えることの実践が図られた。</p> <p>△酒田でのフィールドワークや活動を実施するために地域と連携すること。</p> <p>△本事業と総合的な探究の時間における探究学習との連動させること。</p> <p>△連携先との講座内容等の評価検証の必要性。</p> <hr/> <p>○学校の教育課程に即し、芸術コース、理系コース、医療コースに分かれ特色ある事業がなされている。</p> <p>○外部機関と連携し、生徒の学ぶ場が広がっている。</p> <p>○生徒の体験による変容が見られ、よい活動となっている。</p> <p>△このような事業を行っていることを地域に情報発信した方がよい。</p> <p>△本事業が終了しても、同様な活動が継続できるように検討してほしい。</p>

学 校 名		事業名及び事業実施内容	自己評価 良好な点：○、課題が残る点：△
			学校関係者評価 良好な点：○、課題が残る点：△
40	酒田西 (定時制)	<p>[コミュニケーション能力育成事業]</p> <p>5月 食育（地場野菜作り） 10月 食育（県海浜青年の家） 10月 地域清掃活動 （遊佐町釜磯海水浴場） 10月 地域コミセン文化祭参加</p>  <p>地域清掃活動</p>	<p>○地域清掃活動では環境問題に目を向け、環境保全に積極的に取り組む姿勢を持つ機会となった。探究的な学習の時間において海洋ごみの問題を研究した班もあった。</p> <p>○食育では年次を超えた活動により、コミュニケーション能力の向上が見られた。</p> <p>○地域のコミセン文化祭への参加は、地域住民との触れ合いの場を持つ機会を増やし、地域からの期待も高まった。</p> <p>○この事業をとおして、本校での課題であるコミュニケーション能力の伸長が大きく図られた、という評価が高かった。</p> <p>○地域住民との触れ合いをとおして、地域に貢献する態度やその喜びを生徒たちは感じ取った。「周囲の人たちに感謝する気持ち」の項目が昨年に続き更に向上している。社会性の育成に大きく寄与する事業であると評価できる。</p> <p>○野菜の栽培から調理まで、学校が一丸となって取り組めた事業として、食育活動は高く評価された。健康に対する意識向上も認められた。</p> <p>○生徒たちにとって貴重な学びの機会として、本事業の継続を望む声が多かった。</p>
41	酒田光陵	<p>[「総合的な地域本部」設立プロジェクト]</p> <p>1 酒田まつり等、地域行事への協力及び参加体制の拡充 2 一般社団法人「SKIES」運営機構の整備と事業への支援 3 学校応援ボランティアによる教育活動の充実 4 近隣小学校児童・中学校生徒へのものづくり等体験指導</p>	<p>○地域社会から生徒に対して、期待と好評価が寄せられた、</p> <p>○生徒の自己肯定感とともに、地域社会を支える一員という自覚が育まれた。</p> <p>○学校応援ボランティアを希望する地域住民が増え、学校と地域双方向の交流がより一層進んだ。</p> <p>○地域社会において、生徒の様々な分野での活躍をとおして、学校の教育方針及び活動が認められている。</p> <p>△課題探究のために更に一步踏み出す力や、そのためのコミュニケーション力をつける教育活動が望まれる。</p>  <p>酒田まつり山車行列</p>